**“駅D&PA研”の著名建築家設計の建物とｱｰﾄ見学会(報告)**

**NMC駅D&PA研が主催した高円寺と荻窪駅界隈の著名建築家がﾃﾞｻﾞｲﾝした建物とﾊﾟﾌﾞﾘﾂｸｱｰﾄ作品をみて歩く会は、冬にしては良い天気に恵まれ、無事終了したので下記に報告しておく。今回は、対象が駅構内ではなく、久しぶりに“街歩きの会”であった。今後も不定期であるが開催をしていきたい。**

1. **開催日**:：**平成30年1月20日(土)１０：３０～１５：００**
2. **参加者:：NMC2人、地域美産会4人、稲美会3人（7名）**
3. **ｽｹｼﾞｭｰﾙ：(1)高円寺駅改札に10:30集合→(2)10:30～10:55高円寺駅界隈に展開するﾄﾗﾝｽﾎﾞﾂｸｽを飾るｱｰﾄを見学→(3)11:00～11:40座高円寺で担当者より説明を受け施設を見学→(4)JRに乗り荻窪駅へ→(5)荻窪駅南口に展開するﾄﾗﾝｽﾎﾞﾂｸｽを飾るｱｰﾄを見学→(6)明治天皇小休所→(7)西郊ﾛﾂｼﾞ→(8)杉並中央図書館→（9）太田黒公園→(10)角川庭園→(11)荻外荘→(12)13:30～15:00ｳｲｻﾞｰｽ荻窪(食堂で昼食)→(13)15:00中締め解散→(14)有志懇親会**
4. **具体的内容：**J**R中央線の高円寺駅北には､黒のﾃﾝﾄを模した舞台芸術施設「座高円寺」(伊東豊雄ﾃﾞｻﾞｲﾝ）があり､ここでは予めお願いしておいた係員より説明を受け、日頃見られない地下2階の稽古場などを見学しました。高円寺駅周辺には､電線地中化に伴い設置されたﾄﾗﾝｽﾎﾞﾂｸｽ(配電用地上機器)には公募で選ばれた“阿波踊り”を模したｱｰﾄ作品(約30)で飾られています。荻窪駅南口にも､最近ﾄﾗﾝｽﾎﾞﾂｸｽに,“かるた”を模したｱｰﾄ作品(約10)が飾られましたので。これらを歩きながら見学しました。また､明治天皇小休所跡､「杉並中央図書館」(黒川紀章ﾃﾞｻﾞｲﾝ)､「西郊ﾛﾂｼﾞ」(平成21年に国の有形文化財)や「太田黒公園」(“知恵の泉”出演で有名な音楽評論家･太田黒元雄の旧宅で、平成28年に国の登録有形文化財)､「角川庭園･幻戯山房」(角川源義旧宅で、平成21年に国の登録有形文化財)､「荻外荘」(伊東忠太ﾃﾞｻﾞｲﾝで､荻窪会談として名高い近衛文麿別邸。未公開なので外観のみ)など歩くながら見学しました。その後、これは今回の目玉の一つである「ｳｲｻﾞｰｽ荻窪」(隈研吾ﾃﾞｻﾞｲﾝ)を県ｶﾞｽしました、これは､城西病院の旧病棟をﾘﾌｫｰﾑして建てられた有料老人ﾎｰﾑですが、週刊ﾀﾞｲﾔﾓﾝﾄﾞ誌で2年連続してｻｰﾋﾞｽ東京一に選ばれました。ｳｲｻﾞｰｽ荻窪とｳｲｻﾞｰｽ根津の2館を企画段階から手掛け､隈研吾と親交のある小川社長(NMC副理事長)の説明を受けながら､食堂で昼食を摂り､施設を案内いただきました。くしくも和風ﾃﾞｻﾞｲﾝが似ていた｢新国立競技場｣の設計ﾃﾞｻﾞｲﾝをｺﾝﾍﾟで争った伊東豊雄と隈研吾の設計した建物を一日で見ることができました。今回は､石村が世話人をしている３団体の「地域美産会」、（**[**稲美会とNMC**](http://www.bisankai.jp）、稲美会とNMC)**の共催としましたが､これは相互交流で､共存共栄していただくのが狙いでしたが､募集PR開始が12月25日と余りにも遅く募集期間が短かったために､多くの人を集めることはできませんでした。この点は､今後の反省点ですが、初めての3団体共催で開催したので、お互いの交流会の活動状況をPRする等により､お互いの会の存在を知り得たことで相互交流が始まれば幸である。　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（文責:石村）**

補足説明

**まちなかｱｰﾄﾃﾞｻﾞｲﾝｺﾝﾃｽﾄ＠高円寺**は､東京電力の協力のもと､2015年12月から2016年1月にかけてﾃﾞｻﾞｲﾝを募集し､JR中央線の高円寺駅周辺に配置されているﾄﾗﾝｽﾎﾞﾂｸｽ(電線地中化に伴い､電力供給のための変圧器やｽｲｯﾁ等を収納した構造物)にｱｰﾄﾃﾞｻﾞｲﾝを施し､落書き防止や､街の美観向上､賑わいの創出につなげることを目的に｡**地域住民生活等緊急支援交付金(地方創生先行型)を活用**して実施されたものです。応募作品は全国から146作品にのぼり、この中から30作品が､ﾔﾏｻﾞｷﾐﾉﾘ女子美術大学教授らにより選ばれ､路　　上にあるﾄﾗﾝｽﾎﾞﾂｸｽにﾃﾞｻﾞｲﾝ絵が描かれました。結果的には､応募作品に「阿波踊り」をﾓﾁｰﾌにしたものが多いですが､これは今年60回目を迎える｢高円寺阿波踊り｣には8月下旬の僅か2日間で、100万人を超える人が訪れるなど､この祭りが定着したことが大きく影響しているのだろうと思われます。30作品は､駅の北と南の道路沿いに配置されています。北線路沿いには､2001年にｸﾞｯﾄﾞﾃﾞｻﾞｲﾝ賞金賞(第1回建築･ｱｰﾄﾃﾞｻﾞｲﾝ部門)を大江戸線環状部の10駅と共に受賞した**仙台ﾒﾃﾞｲｱﾃｰｸ**を設計した建築家の**伊東豊雄**氏がﾃﾞｻﾞｲﾝした｢**座･高円寺**｣があります。この｢座･高円寺｣は｡黒いﾃﾝﾄ風の個性的ﾃﾞｻﾞｲﾝの演劇場で、建設当時には話題になりました。伊東豊雄氏は、みなとみらい線の**元町中華街駅**をﾃﾞｻﾞｲﾝしたり､新国立競技場のｺﾝﾍﾟでは隈健吾氏に惜しくも敗れたことでも有名な世界的建築家です。荻窪駅近くには､週刊ﾀﾞｲﾔﾓﾝﾄﾞ誌が選んだ東京一に2度輝いた隈研吾氏ﾃﾞｻﾞｲﾝの有料老人ﾎｰﾑ｢ｳｲｻﾞｰｽ｣があり、ここを小川社長のご案内で見学し､食堂で作られた美味しい昼食をいただきました。

(**参考**）　　**隈研吾**:　63歳、東大卒、新国立競技場（伊東豊雄と競う）、ｳｲｻﾞｰｽ荻窪､ｳｲｻﾞｰｽ根津、“和”をｲﾒｰｼﾞしたﾃﾞｻﾞｲﾝ、　　**伊東豊雄**:　76歳、東大卒、せんだいﾒﾃﾞｲｱﾃｰｸ（第1回ｸﾞﾂﾄﾞﾃﾞｻﾞｲﾝ賞の金賞）、高尾国家体育館､横浜みなとみらい線の元町･中華街駅、座高円寺、　　**黒川紀章**:　1934年生まれ，73歳で没､京大建築学科・東大大学院卒、六本木ﾌﾟﾘﾝｽﾎﾃﾙ、国立新美術館、杉並中央図書館、　　**伊東忠太**：1867年生まれ、86歳で没、兼松講堂、築地本願寺、宮崎神宮、大倉集古館、靖国神社遊就館、荻外荘